

水稲チェーン除草のポイント

小川町有機農業推進協議会
東松山農林振興センター

月	5			6			7			8			9			10		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育相	播種期			移植期			最分けつ高期			幼穂形成期			出穂期					
管理作業	播種	耕起		代かき①	代かき②	米ぬか散布												

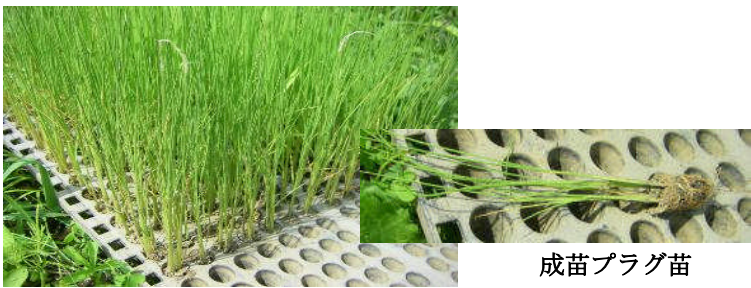


チェーンで除草できるコナギの大きさ

間断かん水

落水

◆ポット成苗を使用
田植え後数日で水田にチェーンを入れて田面を引くため、倒伏などの物理的障害を軽減するため、活着の早いポット成苗を利用する。
播種量は45～50g/箱、10aで22箱が目安。



成苗プラグ苗

苗の徒長防止を目的に、1葉期と3葉期に苗床にコンパネを乗せて苗ふみを実施する。

◆2度代かきで表層土壌中の埋蔵種子の低下
田植え予定日の7～10日前に入水、1回目の代かきを行う。
2回目は田植え1～2日前に行い、1回目と2回目の間に発生した雑草を幼植物にうちに駆除する。


◆田植え
代かき後は田面を露出させなうように常に水を張っておく。
栽植密度は粗めとする。(約40～45株/坪)

◆米ぬか散布(土づくり+トロトロ層の形成促進)
田植え後、翌日までに米ぬかを40～60kg/10a散布し、表層の微小動物の活性を促す。

◆チェーン除草機
除草作業に利用する器具は、長さが20cm程度になるようにチェーンをワイヤーで留める。そのチェーンを5cm程度の間隔で角材に留める。




◆チェーンの牽引
発根初期の幼植物がチェーン除草のターゲット
第1回目のチェーン除草日は2回目代かきから起算し7日以内とし、いね苗の活着後(田植後2日目)から2～7日間隔で複数回数、チェーンを牽引する。牽引後は雑草が浮く。田面がトロトロの状態ほど雑草の抜き取りが多くなる。
田面がトロトロなら効果はあるが、チェーンが田面に食い込まなくなると効果が極端に少なくなる。
初期は縦・横に行うことで、株元除草に効果が上がる。



◆牽引回数は雑草の発生状況で異なる。発生量が多そうな場合は回数を多くする。
除草間隔は7日間隔を目処に4回以上をを目標に行う(但し、温度・土質・深水条件により処理間隔を考慮する)。

◆除草の追加
チェーン除草のみでは、十分な除草ができない場合は、機械などで除草を追加する。

◆水管理
代かきから収穫直前の間断かん水まで深水管理を基本とする。
田植時～活着までは通常の水位とし、活着を促進する(但し、ヒエの占有ほ場で、代かき後5日以内に除草できない場合は深水管理とする)。
田面が露出するとトロトロ層が破壊され雑草繁茂の原因になるので注意する。
チェーン除草後の懸濁を維持するため、当初は、落水はしない。
収穫10～20日前あたりから落水する。

